

多摩市地域自立支援協議会 令和4年度第1回 会議録

日 時	令和4年7月14日(木) 18:30~20:30	場 所	多摩市役所 401 会議室
出席者 ※敬称略	委 員	吉井、藤吉、野路、荒井、市川、川辺、角川、北山、佐藤、中原、高松、 登坂、山田、松澤	
	障害福祉課 (事務局)	平松、五十嵐、上野、平林、岡本、今野、片山、三橋、山内	
欠席者 ※敬称略	委 員	柴田	
記録者	事務局		
項 目	開会 1 新任委員の紹介 2 今年度の主な議題、スケジュールについて 3 多摩市障がい者基本計画の令和3年度の評価について 4 優先課題についての協議 5 新型コロナウイルス感染症を踏まえた災害対応について 6 その他 閉会		
	詳細		
開会	～開会～		
1 委員紹介	新たに5名が委員に就任し、挨拶を行った。 障害福祉課の障害福祉係の係長、発達支援室の室長・係長に4月1日付で人事異動があったため、報告した。		
2 今年度の 主な議題、ス ケジュール について	資料2 今年度の主な議題、スケジュールについて 意見はなく、スケジュール通り進めることで了承を得た。  事務局より、今年度の地域自立支援協議会における議題について説明。 以下、委員から出た意見。  資料3 令和4年度地域生活支援専門部会における検討状況について(途中報告) ・緊急時の対応について、近隣の国立市では、地域包括支援センターが高齢者、障がい者の方を24時間対応する取組を行っている。多摩市では、このような取組を行っているのか。 ・医療との連携について、普段から医療行為が必要な方はかかりつけの医師がいるが、かかりつけがない者の対応や流れはどうなっているのか。		

<p>情報提供 東京都精神 障害者地域 移行体制整 備支援事業 について</p>	<p>【事務局】</p> <p>緊急時の対応については、その方の個別性や親族の有無、支援がどのように入っているかで、状況が変わると考えている。市の人員を含めてどこまで行うかについては、地域生活支援専門部会の中で引き続き検討していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後どのような体制をとっていくのか、考えてほしい。</li> </ul> <p>【事務局】</p> <p>医療との連携について、緊急時の対応と重複するが、かかりつけの医師がいるか、訪問看護が既に導入されている場合もあると考えられる。そのため、全てのケースの方向性については、現時点では答えが出ていない。各協議会とも情報共有を行いつつ、引き続き検討したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時の対応について、24 時間体制は厳しいものの、検討してもらいたい。</li> <li>・医療との連携について、かかりつけの医師がいない者は福祉サービスから繋げていけるか検討してもらいたい。</li> <li>・当法人では、精神障害のある方の地域移行を南多摩圏域で研修・状況把握や共有をしている。昨年度より、東京都から受託して実施している。</li> </ul> <p>(情報提供者)</p> <p>病院からの退院支援や地域支援の手伝いを行っている。東京都との連携方法は、地域移行体制整備事業という名称で行っている。</p> <p>月に1回、委託している事業所間で、地域移行の状況を報告し合っている。平成29年度までは個別支援を行っていた。精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築により、南多摩を全体的に支援する方向性となった。</p> <p>東京都からは、重点的に取り組んでほしい課題が示されている。①コロナ禍で病院からの外出、外泊ができず、退院に至ったケースが減少している。②精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた働きかけが必要である。③新型コロナウイルスの影響で病院が訪問を受け入れられていない。医療と地域をつなぐ働きかけがより必要である。④入院の期間が1年以上の者のうち、65歳以上が半数を超えている。介護保険で十分な支援が受けられないことや高齢者施設の入居を断られ、退院が進まない。</p> <p>グループホーム活用型ショーステイについて、コロナ禍において感染対策の観点から、利用者が減少気味である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・退院後はさまざまな事業が絡むが、どこが中心となってまとめているのか。</li> <li>・ピアサポーター利用にあたっての手続きの流れを知りたい。</li> </ul>
--	---

<p>情報提供 多摩市の入院患者の状況について</p>	<p>(情報提供①)</p> <p>まずは、病院が障害福祉課に相談している。医療保護入院等の対象は南多摩保健所へ。相談支援事業所にも地域移行していくために、病院と連携を取りながら退院に向けた支援を行っていく。</p> <p>個別給付を実施する事業者が少なく、計画相談支援で手一杯の状況である。個別給付を実施してもらえるように、相談支援事業所に協力いただくことが課題となっている。</p> <p>ピアサポーターについて、精神科病院に伺い、体験談を話してもらう人は少ない。ケアカウンセリング講座を受けた者が病院に行っている。利用者が直接民間事業者には伝えているが、行政はあまり把握していない。</p> <p>8月26日に多摩総合医療センターが主催の高齢者への対応について、講演してもらう。</p> <p>わかさ福祉会では、11月17日、22日に予定している。現在、講師への打診を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修については、議事録に今後掲載されるので確認してほしい。</li> <li>・デイケアはどのような位置づけか。</li> <li>・ピアサポーターの認定の基準があるのか。</li> </ul> <p>(情報提供①)</p> <p>長期入院者が外へ出る際に、利用するもの。少しずつデイケアを通して、地域になじみながらステップを踏んでいく。</p> <p>ピアサポーターについては、ピアカウンセリング講座を年2回受講した上で、病院に訪問する。また、ミーティングに出席し、訪問にあたってのルールを検討する。</p> <p>(情報提供②)</p> <p>当病院では、数年前から他職種から構成された、地域移行推進委員会を立ち上げている。今年度からさらに力を入れ、医師や看護部長、作業療法士や精神保健福祉士などが委員を務め、わかさ福祉会の地域コーディネーターにもご協力いただいている。毎月1回、地域移行の候補にあがる患者の共有や院内研修を毎年少なくとも一度は実施している。昨年度は、研修動画の作成やグループホームのインタビュー、体制整備事業の説明、当事者の方にお話しいただく取り組みも行った。</p> <p>過去に、院内研修を実施した際、もっと入院患者さんに情報を届けてほしいという希望があった。それを基に、毎月、茶話会という長期入院中の男性病棟と女性病棟での取り組みを始め、ピアサポーターをゲストに体験談などを話してもらっている。</p> <p>多摩市に住所がある方の入院患者さんの状況についての実態の共有を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実態を踏まえた、今後の取り組みは考えているのか。</li> <li>・退院までにはどのような形で結び付いているのか。</li> <li>・病院が多摩市にあるので、多摩市内で退院を希望する方も結構いるのではないのか。</li> </ul>
---------------------------------	---

<p>3 多摩市 障がい者基 本計画の令 和3年度の 評価につい て</p>	<p>(情報提供②)</p> <p>入院が長期化する者は病院の近くを希望することもある。市内では地域移行や地域定着の支援を行っているところが少なく、また、人員の関係で支援が足りず、結局病院に戻る者もいる。</p> <p>最近では、独自でプレ地域移行という動機づけのために他の病院に入ってもらい取り組みも行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院の取り組みだけでは広がらないのではないか。</li> <li>・ピアサポートは、どれくらいのサービスを受けている方が取り組んでいるのか。</li> </ul> <p>(情報提供②)</p> <p>ピアサポーターは、入院中の方に向けて話をするため、入院されて大変だったことを共有できるような方が良いと思うが、自身の体験を話してもらえれば、どんな方でもありがたい。ピアサポーターを養成する場所が多摩地域でもあるとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共生社会に向けた取り組みを促進していけたらと思う。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待防止について、従事者からの件数が減っていない。法律に即した中で、判定基準は区市町村で異なることが見受けられる。多摩市として、対応は考えているのか。</li> <li>・市内の事業所間での方針や基準は共有したのが良いと考える。</li> </ul> <p>【事務局】</p> <p>虐待防止法については、その方が引き続き施設で安心して生活できるかというところを趣旨に置いているため、一律に明確に基準を設けるのは難しい。一人ひとりの特性にに応じて、継続した支援を行っていきたいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ある程度の定義があるとよいのでは。拠点整備に組み込んでいけないか。</li> <li>・虐待について、通報先は多摩市だが詳しい管轄はどこか。</li> <li>・件数はどれほど来ているのか。</li> </ul> <p>【事務局】</p> <p>管轄は相談支援担当3が対応となる。</p> <p>件数については、認定レベルでは年2、3件。相談自体は年間20件ほど上がっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人事課の市職員向け研修について、すでに実施がされたのか。</li> <li>・タブレット通訳システムについて、利用があったのか。また、評価はどうか。</li> <li>・避難行動要支援者 避難支援個別計画について、人工呼吸器をつけている方の避難先はどこになるのか。</li> </ul>
--	---

<p>4 優先課題についての協議</p> <p>5 新型コロナウイルス感染症を踏まえた災害対応について</p> <p>閉会</p>	<p>【事務局】</p> <p>研修については、既に管理職向けに実施されていたものである。多言語及び手話の通訳システムを6月から導入した。6月の使用状況は6、7件の利用があった。概ね好評と認識している。</p> <p>人工呼吸器以外の方への対応は検討課題であるが、具体的には進んでいない状況。避難所の空き状況など、今後突き詰めていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、進捗状況を報告してほしい。</li> <li>・虐待については、具体的な件数や相談方法を報告してほしい。人事課の研修については、その後の取組み等があれば、示してほしい。</li> <li>・防災について、災害は珍しくないものとなっている。避難所で仮設トイレを設置の際、面積や数がどれくらい妥当なのか。例えば、扉の開け閉めが人によって変わってくるなど、避難人数に対してのトイレの設置数を検討する必要がある。計画に盛り込むことや実際に体験することも必要ではないか。</li> <li>・令和4年度に設置するひきこもりの居場所づくりについて、進捗状況を伺いたい。</li> </ul> <p>【事務局】</p> <p>福祉総務課が取り組んでいる。ヘルプ永山において、作業場所や相談員を設けることを検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の仕組みについて、利用者の声を拾うこともサービス向上のために大切ではないか。</li> </ul> <p>【事務局】</p> <p>時間が押しているため、ポイントごとに説明し、後日質問をメールで受け付けるのはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問の期限は7月29日まで受け、会議録と合わせて共有させてもらう。</li> </ul> <p>【事務局】</p> <p>10～11月に第2回目を予定。次回までには、もう少し具体的にしていきたいと思う。</p> <p>～閉会～</p>
---	--